



アオジソ新品種「愛経3号」を開発

—低温期の栽培でも品質が優れ、収量が増します—

開発の背景・ニーズ

本県は全国一のアオジソ生産県で、出荷量は全国シェアの55%を占めています。現在、「愛経1号」（愛知県・JAあいち経済連）と在来系統が周年出荷されていますが、冬から春に収穫する低温期の栽培では、葉のふちが波打つ状態になり、出荷調整作業に手間がかかること、在来系統では葉の裏が赤く着色し、品質が低下することが問題となっていました。

そこで、低温期でも品質が優れる新品種の開発に取り組みました。

成果の内容

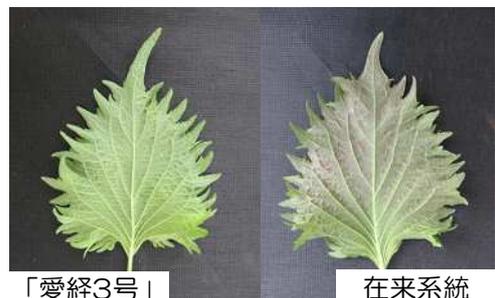
2009年から低温期の栽培に向く系統の選抜を進め、2015年からは現地で有望系統の栽培試験を重ねました。その結果、優良であった系統を「愛経3号」と命名して、2018年3月に品種登録出願しました。本品種の特長は下記のとおりです。

- 「愛経1号」に比べ、低温期に葉の波打ちが少なく、出荷調整作業が容易になります。
- 低温期に葉裏のアントシアニンによる着色が少なく、品質が優れます。
- 「愛経1号」に比べ、収穫量が1割以上増えます。
- シソの重要病害のひとつであるシソ斑点病に抵抗性を持っています。



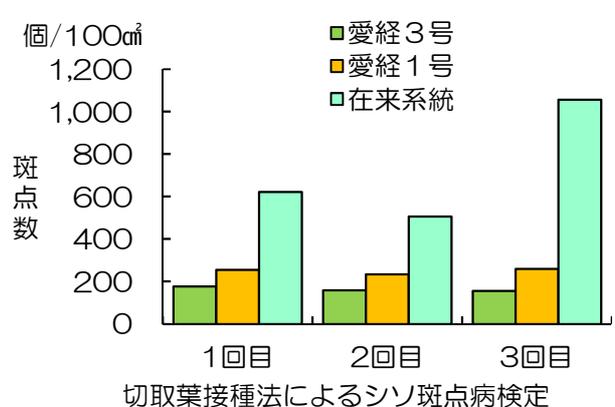
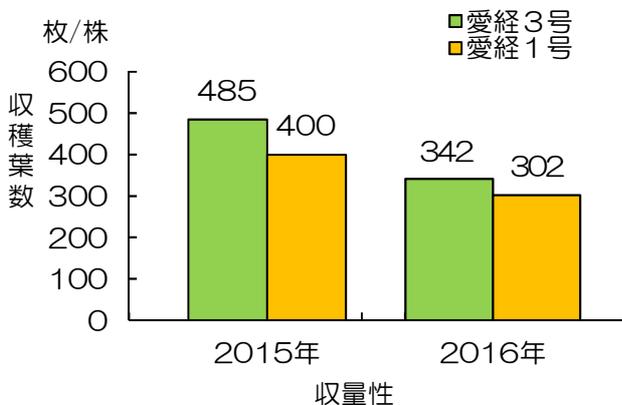
「愛経3号」 「愛経1号」

葉の波打ち程度



「愛経3号」 在来系統

葉裏のアントシアニンによる着色程度



愛知県農業への貢献

2019年から東三河地域で本格的に栽培が開始される予定です。本品種の普及により、年間を通して高品質なアオジソが安定的に供給されます。

【本研究は、JAあいち経済連との共同研究で実施した成果です】